

2025年に向けて

医療福祉のこれから

2025年には県民の6人に1人は75歳以上となり、高齢者世帯や独居高齢者が増加します。また高齢化にともない慢性疾患などで医療を必要とする在宅療養者の増加も予想されます。そのため、現在の医療・介護を提供する仕組みを身近な地域で整えていく必要があります。自らの住む地域で必要なサービスを安心して受けるため、行動している方々があります。皆さんも地域の医療福祉のこれからについて考えてみませんか？

指す医療・介護の姿

介護が必要になったら…

携

住まい
(人・家族)

支援センター
ネジャー
サービスの
イト



施設・居住系サービス

- ・介護老人福祉施設
- ・介護老人保健施設
- ・認知症共同生活介護
- ・特定施設入所者生活介護 等

在宅系サービス

- ・24時間365日対応で高齢者の在宅生活を支援
- ・訪問介護、訪問看護、通所介護

介護予防・生活支援

- ・老人クラブ、自治会、ボランティア、NPO 等

介護



「在宅療養すごろく」と「エンディングノート」。在宅療養を少しでもイメージしてもらえよう心がけています。

花かたばみ(あなたと共に)の会
会長 井川 裕子さん

住みなれた地域で 看取る大切さを伝える

花かたばみ(あなたと共に)の会

父本人の希望から自宅で最期を迎える在宅看取りを決心。不安もありましたが、主治医、訪問看護師、ケアマネジャーさんたちのサポートで無事見送ったあとは、病院での看取りとは違う達成感を感じました。

この会では、その良さを多くの人に伝えるための定例会や出前講座を開催し、在宅看取りの現状や体験談などを話しています。自分の納得のいく最期を迎えるためには、エンディングノートを書くことも勧めています。在宅看取りを行うには、医療や介護に携わる人たちとの連携が大切です。まずは、市町の地域包括支援センターに相談してみてください。

滋賀県地域医療構想

高齢化の進展に対応するため、限られた医療・介護資源を有効に活用し、地域ごとに必要なサービスを確保・提供していくための取組が急務となっています。そこで滋賀県では、2025年を見据え、平成28年3月に「滋賀県地域医療構想」を策定しました。

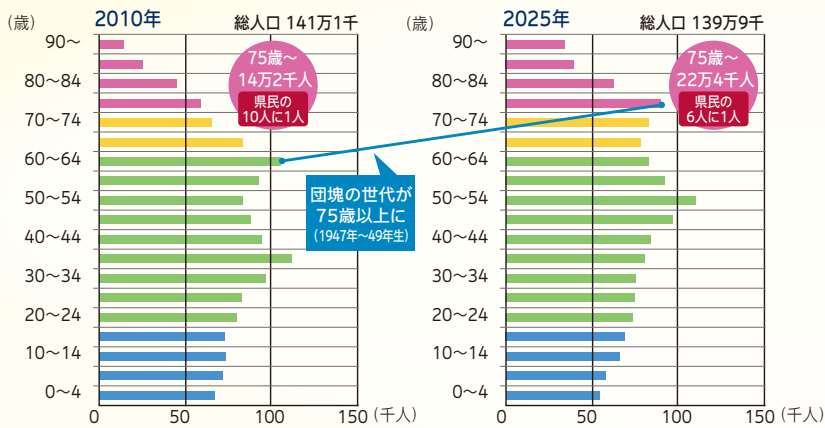
滋賀県地域医療構想基本目標

誰もが状態に応じて適切な場所で必要なサービスを受けられる「滋賀の医療福祉」の実現

県ホームページにて公開しています。

<http://www.pref.shiga.lg.jp/e/lakadia/iryoukeikaku/2013-03.html>

もしくは



(出所) 2010年は総務省国勢調査(年齢別人口は年齢不詳を除く)、2025年・2035年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」(平成25年3月推計)による。

「治し、支える医療」へ
 総人口の減少とともに生産年齢人口が減少する一方で、高齢者は2040年頃まで増加します。高齢者が増えるということは、病気をもちながら生活をする人が増えることにつながり、生活の中で病気がうまく付き合せて、自分らしく生きる時代といえます。「治す医療」から「治し、支える医療」へ。医療や介護との付き合い方が変わりつつあります。

2025年に向けて目

病気になったら…

医療



日常の医療

- ・外来、訪問診療
- ・かかりつけ医
- ・多職種チーム

入院医療



高度急性期・急性期病院

- ・救急医療など、集中的な医療を提供

病状、回復過程に応じた
病院機能の有効活用



回復期病院

- ・リハビリなど、在宅復帰へ向けた医療を提供

慢性期病院

- ・慢性疾患や難病など長期療養向け

地域包括支援センター

- ・相談業務やコーディネーター

連携

住居 (患者さん)

彦根市の地域医療を守る会のスローガン

- 救急車の適正利用
- コンビニ受診を控えよう
- 検診など予防医療の普及
- かかりつけ医を持つ

▶大人に介護のためのオムツをつける勉強会。毎回様々なテーマで行っています。



会の運営費は補助ではなく、ストラップ販売で支えています。

自ら学び、行動する姿勢を 彦根市の地域医療を守る会

彦根市の地域医療を守る会
会長 川村 啓子さん



在宅医療で母を看取った経験から、地域の医療や介護の問題点を目の当たりにし、独学で勉強しました。例えば救急車をタクシー代わりに呼んだり、とりあえず大病院で診察を受けたり、緊急性がないのに夜間救急を受診するなど、医療の現状を「知らないこと」で取る行動が、本当に必要な人への医療サービスを妨げていることに危機感を抱き、7年前に会を設立しました。現在は年に6回の勉強会と、フォーラムを中心に活動しています。医療を人任せにせず、健康意識を高く持って自ら行動する人を増やしたいですね。

地域ぐるみで意識を変える

松木診療所

高齢化が進む中、多くの人は住み慣れた自宅で、家族や近所の人とのつながりを感じながら、心豊かに最期を迎えることを望んでいます。それが当たり前ができるように、まずは「なぜ在宅医療が良いのか」を、住民が自分自身の問題として理解し、考え、意識を変えなければなりません。今は、在宅医療システムが整い、訪問診療や訪問看護などで病院と同じような安心できる医療サービスが受けられるようになってきました。家族が負担を強いられることがないように、まずは信頼できる地域の「かかりつけ医」を持つこと、介護を地域全体で助け、支える仕組みを整えていくことが大事だと思います。



松木診療所
所長 松木 明さん